

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0572210367号
法人名	五十嵐企画
事業所名	ケアセンターほほえみ
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字木戸沢115-16 (電話) 0185-72-4343
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成20年11月17日

## 【情報提供票より】 (20年10月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤4人, 常勤換算11.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	～1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円 円		

### (4) 利用者の概要 (10月15日現在 )

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0
年齢	平均 81.6 歳	最低 60 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	能代山本組合総合病院 ・ 医療法人能代歯科医療会
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は温泉街の中心に位置し、自治会や近隣住民との交流が活発に行われている。温泉地の利を活かし浴室に温泉を引いて、利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。敷地内の農園で機能訓練を兼ねて利用者と一緒に畑仕事を行う等、共に収穫の喜びを分かち合っている。併設事業所との交流も活発に行われ、事業所の多機能性を活かした支援が行われている。また、利用者の誕生日に本人が希望した場所に出かけるなど、さまざまな形で外出支援を行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>事故の未然防止については、普段から利用者に関する具体的な情報を収集することで、職員の気づきが多くなった。</p> <p>預り金については、家族に出納状況を詳しく説明して署名・捺印して頂くようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>毎年2回自己評価を行い、さらに外部評価で課題とされた事項についても職員で話し合いながらサービスの改善に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長、民生委員、第三者委員、家族会、地域包括支援センター等で構成される運営推進会議で、事業所の事情やケアサービスの取組み及び外部評価の結果を報告している。必要に応じて相談し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>定期的に行う家族会では、意見、不満等を気軽に話していただき、年2回のアンケート調査を行い、その結果に基づき、必要に応じて改善しながら運営している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>地域の一員として自治会に加入し、環境作り活動やお祭り等に参加したり、畑で収穫した野菜を配る等、地域との交流を深めている。また、防災訓練等にも、自治会長をはじめ、多数の地域の人達に参加して頂いている。</p>
	<p>重点項目④</p>

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても安らぎと自信をもって自分らしく暮らしたい」という理念の下で、自然環境に恵まれた地域の中で、利用者が自分の経験を活かした生活が出来るよう、ケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を共有し、日々の生活の中で利用者1人ひとりの状況に合わせた活動及びケアの実践により、個々の生活スタイルを維持できるように取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、お祭り等に参加している。また、畑で収穫した野菜を配る等、地域の人達との交流を深めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年2回自己評価を行い、さらに外部評価で課題とされた事項に関しても、職員で話し合いながらサービスの改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、第三者委員、家族会、地域包括支援センター等で構成される運営推進会議で、外部評価の結果を報告して、利用者及び家族の意見を取り入れながら、改善に向けて具体的に取組んでいる。	○	家族から行政側との話し合いを持ちたいという要望も出されており、今後は町当局に運営推進会議への出席をはたらきかけていくことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入退居及び他町村からの受入れに関する連絡を密に取っている。また、市町村担当者に内部研修の講師として協力して頂いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、利用者の状況や行事に関すること及び受診予定等を知らせている。 また、金銭管理についても預り金明細に領収書を添付して送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中では、意見、不満等を気軽に話していただいている。また、年2回のアンケート調査を行い、意見を反映させた運営を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットではあるが玄関が共有となっており、相互の職員と利用者との交流により馴染みの関係ができています。また、配置替えは利用者に影響がでないよう配慮し、必要時のみ行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づいて、新人研修、中堅職員研修、指導者研修等を受講している。その他、外部より講師を招いた内部研修を行っている。研修に参加した職員は、毎月の職員会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループホーム協議会に入会しており、管理者交流会や事例検討会等に参加して情報交換している。また、近隣グループホームの行事に参加し、相互の訪問を通じてサービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族にホームを見学して頂いている。また、職員が自宅や病院を訪れて本人と面談し、安心して入居できるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に利用者からさまざまな調理方法や地域の歴史を教えてもらい、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の思いや要望を把握できるように努めている。また、家族からの情報により、昔からの習慣を継続できるように支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族の要望を取り入れて職員全員で検討し、本人の状況に合わせた、その人らしく過ごせるような介護計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前に状態が変化した場合は、職員ミーティング等で検討し、現状に合った新たな介護計画を立案している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、外出の支援を行っている。また、2ユニットの特性を活かして緊急時には相互で協力し、利用者の状態の変化時には併設されているデイサービスの看護師にも協力を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じて、入居以前からのかかりつけ医による診療を受けられるように通院介助を行ったり、訪問診察に来てもらったりしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族とできるだけ早い段階から話し合い意向を伺って、終末期における状態変化時の医療機関との連携についても、具体的に確認して職員に周知している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の性格等を把握した上で言葉遣いや対応には十分注意している。記録等の個人情報に関しては、第三者が閲覧できないよう管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、食事のじかんや入浴等、利用者の状態や希望にそった支援を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者と職員共同で行っている。さまざまな食材の調理法を利用者から教えてもらう等、その人の経験を活かしながら食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉が出ていることもあり、入浴はとても楽しみにしている。毎日入る方や一日おきに入る方など、利用者一人ひとりの希望や健康状態に応じて入浴している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じておはぎ作りや干し柿の作りを行っており、一人ひとりの経験を日々の暮らしの中で活かしていけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に応じて外出支援を行っており、短時間でも野菜作りをしたり、車で出かける機会を作るなどして気分転換を図っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にはセンサーが設置され、日中は玄関を施錠していない。職員は見守りを徹底し、利用者が外出しそうな様子を察知したら、さり気なく声を掛けたり、付き添うことで安全で自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、自治会等の協力を得て、年に2回避難訓練を行い、そのうち1回は夜間を想定している。それ以外でも消防署の職員を招いて内部研修会を開催し、災害に対する意識を高めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設のデイサービスの管理栄養士が栄養バランスをとれた献立を作成している。また、毎食後一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を確認して個々に記録し、摂取量が不足しないよう心掛けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節ごとに利用者と手づくりの飾り付けをして、居心地よく過ごせるようにしている。また、食事の際はテレビを消し、懐かしい音楽を流して、利用者が心地よく過ごせるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、本人が自宅で使い慣れた家具や寝具を持ち込んでいただき、安心して自分の生活スタイルを維持できるように支援している。		

※  は、重点項目。